

教宣 せぶん

地方も頑張るポスティング

県下全課所 基点配布 達成

飯田支社基点 506 枚

3月7日(土)、県下最後の基点配布先である飯田支社にむかいました。カーナビは自宅からの距離 113 キロ、高速道路を使つての運行時間を 1 時間 20 分と示しました。県のほぼ中心に位置する自宅地点からの表示に、あらためて信州の“広域性”を感じました。

飯田市は、昭和 22 年にいわゆる「飯田の大火」があつた場所で、この大火によって 3700 棟が焼失。損保全体の保険金支払額が当時の金額で 1 億円にのぼり、各損保会社は銀行からの借り入れで保険金を支払うことになったそうです。この大火が原因で、損保会社は長年、飯田市から“撤退”することになるのですが、その影響で「飯田市民は損保会社に対して複雑な感情を持っている」という話しを、日動時代の飯田支社に働く、契約係の先輩から聞いたことがあります。“まさか”の時のために掛けた保険で“まさか”が起き、“まさか”があつたからと“撤退”する損保会社。そこには社会的使命を忘れ、利益追求に奔つた損保各社の場当たりの姿勢が見てとれます。私たちのたたかいてもダブります。この日歩いた先だけですが、現在では、当社をはじめ、損ジャ、あいおい、日新、共栄、ニッセイ同和の各損保社が店を構えていました。一度失つた飯田市民の“信頼”を、損保社が取り戻せているとしたら、それは各損保社の募集人の方々の不断の努力があつたからだと思います。

飯田市には初めて足を踏み入れたのですが、町名を見て懐かしく感じた場所がありました。日動社時代の飯田支社があつた地名で、テナントとして入つていた交通社のビルも現存していました。見ると、骨董品とも言える日動火災の

代理店の看板がかかっており、「ここに飯田支社があったんだ」と確信しました。2階・3階が貸事務所になっていてポスティングしていると、前述の先輩の事務所と思われる代理店名がありました。事務所まで上がってチャイムを鳴らしましたがあいにく留守だったので、ポスティング終了後、電話をかけると、元気に代理店をやっている様子がわかりました。「体に気をつけて頑張れ」と激励されました。

飯田支社は3月に「東海日動パートナーズ信州」を立ち上げました。飯田支社に行くと、支社の中にパートナーズが同居するためか、向かいの駐車場にパートナーズの看板が掲げられており、支社の看板も新しくなっていました。直近で「待望のパートナーズが誕生しました」というメールが配信されてきており、飯田支社がいかにこの「パートナーズ」に力を入れているかがうかがえますが、果たしてどれだけ代理店の皆さんに受け入れられているのでしょうか？個人でやっていきたいにもかかわらず、強引にパートナーズに吸収されることなどあってはなりません。損保社の「撤退」によって失った「信頼」を取り戻すことに、大変苦労した代理店の皆さんの「意志」は、大いに尊重されなければならないと思います。

9時30分から12時30分まで、506枚のビラをポスティングしました。帰り際に、看板が出ていないのでわからなかったのですが、損保社が入っているテナントビルを見つけたので6枚の端数がうまれました。

この日のポスティングで、県下6地区にある出先支社の基点配布を完了しました。旧日動社時代は、契約係社員が各地に在籍していたこともあり、支社がどこにあるのか、そこがどういう土地柄なのか、交流や懇親も含めて情報交換ができました。しかしいまはそういう社員間の交流をはかれるのは、管理職だけです。ほとんどの社員は、6支社の場所を知らないはずですが、こんなところにも、従業員の意識を、できるだけ企業内に、支社内に封じ込めようとしている経営者の意図を感じてなりません。

「経営者の言うことが決して絶対ではない」。6課所の基点配布を終了して得た実感です。